

分科会 D

テーマ 「新時代の持続可能なツーリズム」

1. 開催概要

日時	2021年10月27日(水) 13:00-15:00(日本標準時)
方式	オンライン
使用言語	日本語、英語、中国語、韓国語

2. 参加者

都市	名前	役職
福岡市	吉田 宏幸	経済観光文化局理事
泰州市	グー・ピン	副市長
鹿児島市	下鶴 隆央	市長
宮崎市	河野 太郎	副市長
長崎市	田上 富久	市長
ビエンチャン市	プーコン・バンナヴォン	副市長
ウラジオストク市	ズラベール・ユリー・グリゴリエウイチ	国際関係局長
ダナン市	チャン・フン・ソン	副委員長

	名前	所属
モデレーター	鈴木 宏子	国連世界観光機関駐日事務所 副代表
アシスタント	大木 洋平	一般社団法人海外環境協力センター 研究員

3. 分科会発言要旨

(1) 各都市の取組事例発表

モデレーター	<ul style="list-style-type: none">・本日は未曾有の危機であるコロナ禍を経て、都市において観光振興はどうかあるべきか。50年、100年先を見越したサステナブルな観光のあり方について議論を深めたい。・観光産業は成長の一途をたどり、世界全体のGDP及び雇用の10%を生み出している。観光の推進は、地域の文化の保全や、環境保護、平和にも貢献している。・今般のコロナ禍によって観光産業のみならず、飲食や小売、エンターテインメント、地産地消を支える第1次産業など地域経済に大きな影響が出ている。特に観光産業の8割を占める中小企業は甚大なダメージを被り、世界では約1億人の雇用が失われたとされている。・UNWTOでは、コロナの直前の水準に戻るまでには約2年かかると予測している。
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・観光回復に当たっては、コロナ前の状態にただ戻るのではなく、以前の反省を活かしてよりよく回復していこうというビルドバックベターがキーワードになっている。地域の自然や、文化、人々の生活に過度な負担をかけないように、そして観光が地域の人々に恩恵を与えられるようにサステナブルな形で観光振興をしていくことが必要である。
福岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア太平洋のゲートウェイ都市として、アジア太平洋都市サミットに参加する都市と連携し、サステナブルツーリズムを進めるため、福岡市は持続可能性を脅かす現在の課題に対して経済や文化の回復、ゼロカーボンや SDGs の実現、地域のレジリエンスや多様性の向上、新時代のサステナブルツーリズムの振興に取り組む。 ・福岡市のビジョンは人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市であり、環境・社会・経済の三つの要素がバランスよく発展、改善していくことが重要であると考えている。 ・福岡市のサステナブルデスティネーションの特徴として、世界屈指のコンパクトシティ、福岡市固有の伝統文化体験、日本のモデル都市としてオーバーツーリズムにチャレンジしてきたという3点である。 ・福岡市が新時代のサステナブルツーリズムを推進していくためには、パンデミック、2050年カーボンニュートラルへの挑戦、地域との調和の3つの課題があると考えており、その解決のための3本柱は以下の通り。 <ol style="list-style-type: none"> ① COVID-19 に対するレジリエンス <ul style="list-style-type: none"> ・店舗やホテルに対し、非接触機器や設備の導入経費など約1万件に助成し感染症対応シティづくりを進めている。最新の機器等への更新が進んだことで、省エネルギー化によるCO2排出の抑制にも貢献している。 ・観光客のニーズの変容に柔軟に対応すべく、仕事で長期間滞在しながらバケーションを楽しむというワーケーションを推進している。 ・多くの文化イベントの中止が続いている中、オンライン配信とクラウドファンディングなどデジタル化の導入を進めており、800年以上続く日本最大の集客力を有する祭りを継続させるなど文化伝統を守る取組を行っている。 ② SDGs・カーボンニュートラルリティ <ul style="list-style-type: none"> ・市では2040年カーボンニュートラルの実現を目指しており、観光産業事業者においても再エネ導入や省エネ化、カーボンオフセットの取組を進めている。 ・海辺の魅力を高める福岡 East & West プロジェクトの推進、e-bikeの導入など健康的に楽しむ観光に取り組んでいる。 ③ インクルージョン&ダイバーシティ <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ施設にてホストとゲストが一緒になりコミュニティを作って観光と地域との共生を図っていくというモデルの普及を進めている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・思想、宗教、アレルギー、健康など、食の嗜好性を含め多様な観光客を受け入れる環境整備やサービスの提供に取り組んでいる。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化を活用した観光の促進やデジタル化の活用、カーボンニュートラル、地域との共生など多岐に渡る先進的な取組を進めており、非常に刺激を受ける発表内容であった。
泰州市	<ul style="list-style-type: none"> ・700年以上前にマルコポーロが「この世の多くの幸せはこの街で見つかる」と称賛したように、泰州市の観光のコンセプトは健康都市・幸福都市であり持続可能な観光は必要不可欠な目標である。そのための取組としては下記3点。 <ul style="list-style-type: none"> ① 地域特性を考慮した観光開発・観光イベントの開催 国際観光祭をはじめ、菜の花祭り、グルメを中心とした祭りや京劇に関する芸術祭などの伝統文化に特化したイベントなどを開催している。 ② 観光イメージ・ブランド力の強化 市内の観光名所には、最高レベル国家5Aが1カ所、4Aが10カ所、農村観光重点村1カ所、国家エコツーリズムモデルが1カ所あり、各国で長年に渡って観光プロモーション活動を行い知名度向上に取り組んできた。 ③ 観光インセンティブ政策 コロナ対策を行いつつ観光業の回復を図る目的で総額5,000万円の観光キャンペーンクーポンを発行し、観光関連企業の経営状況の改善を行った。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴を生かした様々なフェスティバル、イベントの開催など非常に興味深い発表内容であった。
宮崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の産業構造を見ると宿泊業・飲食業などサービス業が全体の18%という高い割合を占め、観光関連産業が市の経済を支えているため、今後どのようにコロナと共存し観光施策に取り組むかということが最大の課題である。本日はウィズ・アフターコロナを見据えた観光施策の構築について発表したい。 ・昨年の観光入込客数は前年比39%減の約380万人、宿泊者数は前年度42%減の約150万人であり、特に外国人宿泊者数にいたっては、前年比87.1%減の約25,000人であった。 ・観光の回復の筋道としてはまず県内・九州など近場の需要取り込み、続いて中長距離の国内旅行の需要の取り込みというステップを考えている。 ・インバウンドの獲得については、宮崎県発着の国際線の復便により戦略的に観光需要を取り戻していく予定である。 ・携帯電話の位置情報データなどを活用したトラッキングによる感染状況の把握を進めるとともに、ワーケーションを推進している。後者については企業や個人を一括でサポートするワンストップ窓口の設置を進めている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今夏のオリンピック・パラリンピックでは6競技8ヶ国、計12チーム324名からなる海外代表チームの事前合宿を受け入れた。これまで様々なスポーツにおける選手のキャンプの受入を続けてきたことから、そのノウハウを感染防止対策にも活かし、1人の陽性者も発生させることがなかった。コロナの状況を打開する鍵となるこの強みを今後の観光施策の構築にも活かしていく。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を見据えデジタル技術を活用し、人々の動きやニーズを把握して観光プロモーションやマーケティングを行い、ワーケーションの推進などにも取り組むなど非常に参考となる事例であった。
長崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客のニーズに変化が生まれている中、ポストコロナのツーリズムのための3つの取組を紹介したい。 <ul style="list-style-type: none"> ① 感染症に強い安全安心に旅を楽しめる街 <p>日本で最初に西洋医学が伝わった長崎には多くの優秀な医学者が集まってきたという歴史的経緯がある。長崎大学では感染症の研究教育拠点として国内初となるBSL-4研究施設の準備を進めており、大学側の監修のもと、当市では独自のコロナ対策ガイドラインを策定、それに沿った対策をとる宿泊施設や観光施設などを認証する制度を展開している。</p> ② ハイブリッド型の交流都市 <p>観光客に加え、ビジネス客による交流人口の拡大を目指し、本格的コンベンション施設が11月に開業する。オンライン会議にスムーズに対応できるよう5G対応の通信環境を備えるとともに、国の換気基準を上回る換気能力、空気中のウイルスを除菌する紫外線殺菌装置の設置、机や椅子などには抗ウイルスコートを塗布するなど感染症対策に力を入れている。</p> ③ 地域の資源を活かした魅力ある街 <p>歴史的建造物などを利用した長崎らしさを感じられるレセプション会場の充実や、地域資源などを活かした長崎ならではの体験コンテンツの充実など、実際に足を運ばなければ楽しめない魅力づくりに取り組んでいる。</p>
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄積された感染症研究の強みを活かし、安心・安全な環境を促進するとともに地域の資源を生かしたユニークな取組事例であった。
ビエンチャン市	<ul style="list-style-type: none"> ・長い歴史、豊かな遺跡、美しい文化を有する首都として、これまで国際社会やASEAN、世界の友好国との協力関係を築くことを目的に、文化、自然、歴史観光の開発・促進に関する政策を実施してきた。 ・具体的には公園の整備や河岸の景勝地としての開発、また、重要な遺跡やジオサイトなどを維持するための修復を行い文化的価値が保たれるよう取組を進めている。 ・今後の方向性としては以下の3点である。 <ul style="list-style-type: none"> ① 持続可能なツーリズムに関する情報を交換するための調整メカニズ

	<p>ム導入</p> <p>② 感染症の発生を踏まえた観光モデルへの修正</p> <p>③ 各都市のユニークな旅行商品の創出や観光プロモーションの共同推進</p>
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> 文化、寺院や伝統的な生活様式など独自の文化資源を活用した観光に加え、都市のインフラ整備や観光人材の育成、環境に配慮した観光、持続可能な観光の推進に向けた協力メカニズムなど前向きな内容であった。
ウラジオストク市	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス環境の魅力を高めることに注力し、競争力の支援、有望な事業への支援、あらゆる部門の投資家と協力し、新しい時代の持続可能な観光に取り組んでいる。 市所有の公園・広場・川沿いの道、市民・観光客のための遊歩道に加え、2021年末までに計26か所の公共スペースを整備している。 街の歴史や文化的な持ち味を活かし中心部に遊歩道を作るツーリストルートという構想の積極的な推進、将来の優先投資事業として市内でのアミューズメントパークと世界レベルのゴルフコース建設など市街地外の観光インフラの整備、エルミタージュ美術館の分館などが入る予定の大規模複合施設である文化センターの建設、市民や観光客に人気の2地点をサイクリング・ランニング用のルートで結ぶ河岸改修等も同時に進めている。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍からの回復に向け、各種インフラの整備、主要観光地を巡るルート、公園や公共スペース、サイクリングルート等の整備を着々と進めるという大変興味深い内容であった。
ダナン市	<ul style="list-style-type: none"> ベトナム中部に点在する観光名所の接続ハブ、アジア太平洋の主要地域と接続する国際空港を有すダナンにはゴールデンブリッジなど魅力的なスポットがあり、これまでAPECや各種のスポーツイベントやフェスティバルなどを開催してきた。 観光開発は5つの社会経済開発の突破口の1つであり、質の向上や持続可能性に力点を置き、都市構造と連動した観光空間の最適化、エコシステムを形成するためのスマートテクノロジーの導入を強化している。環境にやさしい都市を目指し、様々な取組を進め、ロックフェラー財団が主催する100のレジリエントシティメンバーになる権利を得た。 ビジネスやマネジメントの専門家による指導やトレーニングを提供した専門的な人材の育成、地域の観光連携、観光資源管理の強化、地域の観光サプライチェーンや地域間の観光商品の開発などの取組も行っている。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> 地域のユニークな観光資源を活かして観光振興を行うとともに、スマートテクノロジーの活用、地域の人々や事業者が恩恵を受けられるような仕組みを構築している非常に先進的な取組であった。
鹿児島市	<ul style="list-style-type: none"> 多いときは年間1,000回以上の噴火を繰り返し、市内に宿泊する外国人観光客の約9割が訪れる活火山である桜島との共生を持続可能な観光に活かしている市のオリジナルの取組を紹介したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・土石流によってできた扇状地は、柑橘類や大根の栽培に適しており、世界一小さい直径5センチの桜島小みかん、30kgを超える世界一重い桜島大根を生産している。 ・桜島一周36kmを巡るジオツアー、錦江湾でのシーカヤック、温泉が湧き出るビーチなど魅力的なスポットが多い鹿児島市の市民は、火山と海が生み出す宝を生活や産業の中で活用している。 ・市街地を走る路面電車の軌道敷はヒートアイランド現象の緩和のために緑化し、その基盤には水はけのよい火山噴出物の白砂も原料とするブロックを使用するなど、時として脅威となる火山を有効な資源として活用する知恵を育み、強固な防災対策を施し持続可能な共生を可能にした。 ・京都大学と連携して世界トップレベルのモニタリングシステムを構築し、避難計画に基づく訓練は外国人観光客も含め市民も参加しながら50年以上に渡り続けてきた。オンリーワンの魅力を活かした観光は、そこで暮らす人々や、しっかりとした防災体制により実現している。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・活火山である桜島と共生しながら持続可能な観光を推進し、自然やそこで育まれた農産物を活用してユニークな観光商品や体験を創出するとともに、環境への配慮や避難訓練などレジリエンスに関する取組を進めている優良事例であった。

(2) 意見交換

モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍からのより良い回復を目指し進めてきた各都市の取組を整理すると以下の3点が共通する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 地域独自の自然や文化などの大切な資源を保護しつつも活用し、地域ならではの観光商品・観光体験を創出すること ② 地域の人々との調和・地域への配慮 ③ ニーズの変化に対応するためのデジタル技術の活用、観光サービスの変革、新たな需要の創出および安心安全な観光振興 ・観光地としてのサステナビリティに必要なこと、目指すべきことなどの観点も踏まえアフターコロナ時代の観光に関する取組について更に掘り下げた議論をしていきたい。
福岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・ウラジオストク市およびダナン市に対する質問がある。 ・前者に対しては、市民だけでなく観光客にとっても魅力的なものとしていくための工夫にはどのようなものがあるか。 ・後者に対しては、どのような点が評価され「100のレジリエントシティ」に選定されたのか、サステナブルツーリズムの観点がどのように活かされ評価につながったのか。
ウラジオストク市	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や観光客に人気の2地点をサイクリング・ランニング用のルートで結ぶ際に2つの大きな橋を架けた。こうすることにより、夏にはビーチへ、冬にはスキー場へ行くことが可能となった。 ・その他、市街地から遠くない場所で清潔に保たれた美味しいグルメが食

	べられるレストランやクルーズ船なども楽しめたりするなどの点が外国人観光客にとっての大きな魅力につながっている。
ダナン市	<ul style="list-style-type: none"> ・自然のエコシステムの保全・管理が評価されたことが選定された理由であると考えている。ロックフェラー財団からも多くの助言を頂き、それに基づいて改善を図り、市の施策として取り組んできた。 ・加えて、自然生態系に関する 99 のイニシアティブにも現在取り組んでいる。こういった点が相まってダナン市の環境面に対する取組が評価されている。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴を打ち出すという点で、どのような工夫や苦労があったのか更に話を伺いたい。
鹿児島市	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの発表の中で紹介した世界一小さなみかんや世界一重い大根をはじめ、和牛オリンピックと呼ばれるコンテストで賞を取った実績のある食材を市としては誇りに感じているが、地元の飲食店ではこのような食材を扱うのは当たり前だと考えているため、そういったストーリーをなかなか前面に出したアピールを観光客にしない傾向にある。これだけ珍しい誇れる食材を持っているのだという意識をお店や市民と共有するとともに、そういったお店を開拓していくことが課題である。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・観光体験を創出する時に、その背景にある地域の文化や歴史などのストーリーと一緒に提供することは非常に大切であると言われており、まさにそれを実践されている素晴らしい取組である。
泰州市	<ul style="list-style-type: none"> ・上海蟹や小籠包などグルメ食材は泰州市にとって特徴のある観光資源の一つである。これらのグルメ食材を全国に、そして世界中の人に知ってもらうためのプロモーションは地方政府の責任である。したがって、グルメという特徴を打ち出した観光に対して泰州市は非常に力を入れて取り組んでいる。国際観光祭や様々なイベントは知名度を高めるための機会でもあるため市でも多くの行事を開催している。また、泰州のグルメを泰州の美しい風景と結びつけてセットで打ち出しているのだが、ここが市の計画を策定する際の趣旨・ポイントである。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産品をプロモーションする祭りも企画され、地域の自然景観も一緒に PR されるという非常に参考になる取組である。
福岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・現在開発段階ではあるものの、デジタルを導入することで祭りを効率的に運用する仕組みづくりを進めている。祭りの主催者側にとってもスマートフォン一つで祭りのロジスティックが完結するとともに、観客も定点カメラの映像を自宅からでも見ることができるという双方にとってのメリットがある。 ・祭りは企業のスポンサーシップなどで維持されているが、その不足分を補っていく仕組みとしてクラウドファンディングにより実施することを検討している。日本最大の集客を誇る福岡の祭りであるが、コロナ禍の現状では集客の面で不安があるため、オンラインにより観客を増やし、その方々からのクラウドファンディングによって寄付を頂くアプローチを進

	<p>めている。</p>
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化の維持をデジタルトランスフォーメーションによって集客につなげるという大変参考になる試みである。 ・ 人々の動きを携帯電話の位置情報データ等を活用しつつ、観光プロモーションやマーケティングにも反映させている宮崎市だが、現状での気付きや苦労点について更に共有頂きたい。
宮崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・ まだ分析段階であるものの、2つの点が判明した。まず、ゴルフ場など身近な場所へ訪れる人々が急増しているという点である。次に、「道の駅」という観光・物流施設ではパンデミック下の方が平時より売上を伸ばしているという傾向を掴めたという点である。 ・ どのような人流が影響を受け、どれくらい回復してくるのかをリアルタイムで把握できるので、このようなビッグデータをしっかりと分析し、施策づくりに活かしたい。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような人々が何の目的で市内に訪問しているのかということ进行分析し、最新技術を活用し観光回復に向けた施策を講じられている優良事例であった。 ・ 安心安全に旅を楽しめる取組を展開している長崎市の事例について更に詳しく伺いたい。
長崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の中で紹介した長崎大学の専門家の監修のもと策定したガイドライン「チームナガサキセーフティ」という取組では、当初は長崎市と県内の2つの市が連携し始めた制度だが、県全体に広げたいという県の意向もあり現在では長崎県全体で取り組んでいる。 ・ 感染が完全に広まってから観光施設を閉じるのではなく、感染が広まる時期に休館した方がその後の感染の広がりを抑え早めに回復するといった有益な助言を専門家から頂き、実際に効果があった。従って、今後も知恵を拝借しながら観光対応、会議場等の運営等に対応していきたい。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各都市の発表の中で観光客と住民との共存や調和が度々取り上げられたが、観光客数の増加に反比例するかたちで地域住民の満足度は低下するという傾向がコロナ前の観光地では度々問題となってきた。 ・ 観光客が住民の方々と一緒に地域づくりにも関わられるようなインクルージョンの仕組み、キャンプ場施設の取組について更に福岡市から共有して頂きたい。
福岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡市としては先ほどの発表の中で紹介したキャンプ場が地域と共生したモデルになるのではないかと考えている。同キャンプ場は完全なる民間の施設で現在も発展途上である。今後、自然と調和したキャンプ場として整備する予定であるが、それ自体も観光客が一時的な住民となり地域住民と共に施設を作り上げていくといったことに取り組んでいる。市としては、このキャンプ場が地域の漁業や農業関係者と接触または共同で商品づくりを行う際の支援を担っている。 ・ 施設自体が地域社会の一員になるという明確なビジョンを掲げている点

	<p>がこのキャンプ場の特徴である。地域社会の一員としてこの施設自体も地域に対する負担金を取めるという思想を持って運営されている。</p>
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民の人々や零細企業、地域の事業者の人々にも観光の恩恵が行き渡るような取組をサステナブルツーリズムの観点から行っている都市の事例について更に議論を深めたい。
ダナン市	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な観光を実現するためには責任ある観光が必要である。そのため、これまで数多くのキャンペーンを打ち出してきた。ベトナムの観光局では、責任ある観光を実現させようというテーマを既に 2017 年に掲げた。市民や中小企業も巻き込みながら、これらをステークホルダーとして全体で観光を振興していこうという動きである。 ・特に本市においては中小企業も積極的に観光プロモーションを行っている。観光協会と中小観光事業者との対話の中で生まれた意見やアイデア・提言を吸い上げ、市として観光開発を進めている。また、1人1人の市民に対して「観光客にフレンドリーに接しましょう」という呼びかけを行っているダナンスマイルキャンペーンを現在実施中である。企業も、市民も、地域社会も一緒になって地域に根ざしたツーリズム戦略を打ち立てることで地域のツーリズムを発展させることができると考えている。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な関係者と連携、学び合いながら地域に根ざした観光政策を打ち出すという大変参考となる事例であった。 ・泰州市の発表の中で紹介があった住民の幸福度向上に向けた取組について更に具体的に伺いたい。
泰州市	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福度というのは、持続可能な観光業の発展にもつながっており、都市が発展しなければ住民も幸せを感じることはできないと考えている。コロナ禍において疲弊した観光業に対し 5,000 万元を投入したことで復興の牽引力となった点を評価され、泰州市は昨年中国で最も幸せな都市に選ばれた。江蘇省の優秀都市にも選ばれている実績があり、このような都市で生活できるということ自体が住民の誇りにつながっていると確信している。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の幸福度には都市の発展、経済の発展、文化の保全などが密接に関係しており、こうした点からも様々な面で充実した政策を取る必要があるということが非常に良く分かった。 ・コロナ禍の発展を見据えて人材育成にも取り組んでいるという発表がビエンチャン市からあったが、どのような人材の育成を目指しているのか伺いたい。
ビエンチャン市	<ul style="list-style-type: none"> ・当市では感染拡大防止を理由として観光客の受け入れを制限してきたが、高速鉄道の完成に伴い、中国からの観光客の受入を早ければ 12 月初旬から再開する予定である。そこでのサービスに従事する人材の育成を目的とした研修に最優先で取り組んでいる。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ダナン市も観光人材の育成を進めているとのことであるが、今後どのような観点を強化していくべきと考えているのか伺いたい。

ダナン市	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、市内には 4 万人に及ぶ失業者が存在する。市は継続した雇用を続けるよう企業に対し支援を行うとともに、プログラムの提供や研修といった支援を続けている。 ・長期的には職業訓練施設や教育センターとも連携を取り、ホテル、旅行会社等の人材など観光業に特化した研修を継続的に行う仕組みをつくっている。マリオットやフォーシーズンズなどグローバルなホテルが立地しているため、幹部人材を含む人材確保に質・量の両面で取り組んでいる。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ウラジオストクでは自然を活用した観光としてサイクリングルートを開発しているが、都心部からの分散や郊外の地域開発も目的としているのか、現状についても共有して欲しい。
ウラジオストク市	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングは非常に人気だが、市街地は坂が多いため、快適性や安全性からも郊外が適している。健康にも精神的にも良いという意味で市民にも観光客にも良い経験になると考えている。
モデレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブルな観光に向け、このような取組が今後どのように発展していくのか期待と希望にあふれるディスカッションであった。分科会 D のとりまとめとしては下記の点である。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域独自の観光資源の保護や商品・観光体験の創出 ・サイクリングなど自然を活用した安心安全な観光商品の創出・観光サービスの変革 ・地域の人々との調和・参画 ・最新デジタル技術の活用 ・需要の創出

4. 分科会報告

(1) 都市を取り巻く状況と課題

- ① 観光産業は成長の一途をたどり、世界全体の GDP 及び雇用の 10%を生み出している。しかし、コロナ禍によって 2020 年の国際観光到着数は前年比対 74%減、特にアジア太平洋地域は他の地域と比べてこの傾向が顕著であり、減少幅は 83.5%減となった。
- ② 観光産業は、裾野は広いが外的影響を受けやすいという脆弱性を有する。コロナ禍は観光施設や宿泊施設にとどまらず、飲食や小売、エンターテインメント、地産地消を支える第一次産業など地域経済に大きな影響を与えた。特に観光産業の 8 割を占める中小企業は甚大なダメージを被り、コロナ禍で約 1 億人の雇用が危機に晒されていると言われている。
- ③ 観光がコロナ前の水準に戻るのは 2024 年以降との予測がなされている。

(2) 新たな視点や考え方

- ① 復興にあたっては、ビルドバックベターという考えの下、これまで問題となっていた観光地の収容力など観光に起因する諸課題を再び発生させない工夫が求められている。
- ② コロナ禍による移動制限の中で、近隣の観光地や地域ならではの体験を重視する傾向が高まっていることから、観光客数増加という量的目標だけでなく、地域の文化・環境資源の保全と活用の両立、観光開発と住民生活の質の向上との調和を図ることを目指していく。
- ③ 観光産業は、観光客と地域社会との間で相互に恩恵をもたらす関係でなければならない。したがって、観光客も観光地の持続可能な観光開発に貢献できるようなシステムを導入する必要がある。また、地域に与える影響を総合的に把握し、エビデンスに基づいた観光地経営の促進やデジタル技術の導入、観光客の責任ある意識や行動に関する啓発等が行われている。
- ④ さらに、観光地における適切な感染症対策等が問われる時代となっているため、感染リスクの低い観光商品の開発や、観光客の混雑回避に係る取組みが必要となっている。

(3) 取組の方向性

- ① 都市は観光産業の下支えのために、必要なあらゆる手段を迅速に実施していかなければならない。
- ② 観光回復に向けては観光が地域の社会、文化、環境に与える影響や貢献の度合いを測定・評価すること等により地域の観光関係者が連携して、負荷軽減やサステナビリティの向上を図っていくことが重要である。
- ③ また、状況の変化に対応したマーケティング・プロモーションの実施、デジタル技術を活用した観光サービスの革新や需要の創出、自然・文化資源を活用した新たな観光商品の開発に加え、レスポンシブル・ツーリ

ズムの推進にも取り組む必要がある。

- ④ 都市は、観光に関連する事業者や地域住民と連携して、安全・安心に観光客を受け入れていく環境整備を進めていく。